

緑ヶ丘だより

一年間を振り返って 130世帯
新緑ヶ丘自治会 会長 川辺裕敏

会長職を引き受けて、まもなく一年が経とうとしています。

今年の目標は「維持」でした。できることなら「向上」もと思いましたが、まずはコロナ禍で行事が例年通り出来るか心配でした。しかしながら、規模や内容の見直し等はあつたものの従来行ってきた行事もおおむね行われ、とりあえずホッとしました。そうした中、来年度に向けて目指すものが少しずつ見えてきました。

1つ目は、この地域に住まわれている方々の住民生活の「維持・向上」に関する活動への参加・協力のお願いです。具体的には、ゴミ収集所や集会場の当番清掃、地域ふれあい活動への参加、あいさつ運動や下校時のひと声運動、ニュース広報活動（回覧板等）などです。活動に参加することによって、近隣の方と顔見知りとなり会話する機会が増え、それらが地域の見えないネットワークとなってくれます。回覧板を回すときやゴミ収集所や集会場での清掃当番などの際、他愛ない会話をかわすことを通してご近所さんのみんなの顔が分かるようになります。挨拶だけでなく話しかけられるようになります。是非皆さんに参加していただきたいと思います。

2つ目は、自治会役員の業務のスマート化です。上記活動を推進する「役員」のなり手を探すのが最近大変です。会議が多く、仕事量が多いなどそのイメージが多少なりともあり、敬遠されがちです。そのため誰でも参加しやすいように、自治会業務（役務）の簡素化と定型化を図りたいと思います。キーワードは「できる人が、できる範囲内で、できることを、できる時間で」活動をしようと考えています。

新聞記事で、全国の中には中学生が自治会役員になっているという記事を読んだことがあります。中学生なら授業や部活動で忙しいとは思いますが、記事のように意欲があればだれでもできるような体制を作れたら良いと思います。

自治会は、災害時のように大きな力が必要になるときに向けて、備蓄や避難所開設訓練などのような準備・活動をしています。もちろんそのためにだけに自治会があるわけではありません。湯浅会長も言っているように、「隣近所の範囲を広げて日常的なコミュニティをとり自治会の諸活動やイベントによってその幅を広げ糸を太くしておけば、必要になったときに発揮できる力は想像以上に大きくなる」と自分も思います。

地域住民がみんなで協力し、一緒になってよりよい環境の中で生活しようという意思のある人の集まりが「自治会」だと思います。ぜひとも自治会活動に参加して下さい。

発行 令和5年3月

座間市緑ヶ丘地区自治会連合会



恩 送 り 232世帯
緑ヶ丘中央自治会 副会長 江上純子

この緑ヶ丘に住んで15年が経ちました。土地を探していた時、かにが沢公園の目の前の今住んでいる場所を見つけ、子どもたちにとって素敵な故郷になるに違いないと即決したのでした。共働きのため、土日に建築状況を見に来ましたが、お隣の方が「ちゃんと見ておいたよ」と行くたびに声をかけてください、安心したこと覚えています。入居したときは、2人目の子がおなかにいて、自治会の班長をしていた方にご挨拶に行くと、「おなかの子が小学生になったころに班長をしてもらうよう、順番を考えるよ」と配慮してください、安心したことについてこの間のように思い出します。

今年度、班長をさせていただき、2度目の自治会役員となりました。おなかの中にいた子は中学生になり、私たちは年を重ね、さらに仕事が忙しくなり、役員であってもなかなか地域に貢献できていません。

しかし、緑ヶ丘中央自治会の会長さんは、今の自治会に足りない防災のことや、自治会の働き方改革や入会していることのメリットをつくり、自治会員を増やすことなど、あります。その中で、今年度は、緑ヶ丘中央自治会初のイベント「地域防災体験ツアーエモシモノ」を開催することができました。新しい消防署で消火訓練や煙体験をしたのですが、まだ自治会に入っていない若いご夫婦や小さなお子さんも参加してくれました。かっこいい消防士さんの姿を見て何を感じてくれたでしょうか。また、特に、子ども達のためにには、コロナ禍で薄れてしまった地域とのつながりを一度築き直していく作業が必要だと感じます。さらに防災・防犯意識を高めるためにも、地域の温かい見守りの目やまなざしが必要です。

来年度、緑ヶ丘中央自治会では、地域にある都南自動車教習所と連携を深め、教習所が定休日の月曜日が祝日の日に何かできないかを考えています。

仕事が忙しいからこそ、自治会に参加し、そこで出会う地域の皆様と少しずつながらを持ちながら、いただいたたくさんの方の恩を次に送れるようにしていきたいと思います。



一年間自治会役員を受けて
小田急相武台南自治会役員一同 112世帯

○自治会に入り3年が経ちました。今回、役員として活動する中、会員の方から隣の方と連絡がとれないとお電話を頂きました。会長をはじめ役員と相談した結果、ご親族と連絡がとれ安否確認と至りました。ご近所の繋がりの大切さを実感しました。今、ご高齢になって自治会を辞めてしまう方がいます。安心して生活できる地域を確保する為に自治会の意義を再確認し自治会が温かい交流の場となって欲しいです。(5区大原)

○緑ヶ丘5丁目の浅野歯科医院の浅野と申します。今年度初めて自治会役員を務めさせて頂きました。当初子供が生まれたばかり、子育て・仕事・役員会の両立が難しいのではと不安もありましたが、他のメンバーのサポートもあり無事?に終えることができました。ありがとうございました。これからも自治会参加を通して、緑ヶ丘のお口の健康サポートを行っていきたいと思っております。

是非皆様検診へ!(1区浅野)

○問題が出れば話し合い順調に進み終えるはすが、次年度役員選出でつまずきました。役員がやりたくないくて辞めたり、高齢世帯が辞めていく、自治会とはなんでしょう?今後存続していくけるのか大きな課題が残りました。しかし、高齢世帯が増え自治会加入者が減る中、若い方がご夫婦で役員に取り組む姿を見て、とても頼もしく微笑ましくも感じました。役員になることで地域のことを知り顔見知りが増え、近所付き合いができる地域になると嬉しいです。若い方たちと繋がり嬉しいです。役員のみなさん、お疲れ様でした。(7区加藤)

○私が緑ヶ丘に住み始めて22年になります。来た当初は周囲の方々も皆様お元気で自治会の行事にも参加してくださる方が多かったように思います。どこの地区でも聞かれる高齢化の波で3区もお亡くなりになる方や退会する方が増えて寂しい限りです。役員は大変とおっしゃる方もいますが、今年度防災担当をやらせていただき災害について考える機会にもなり、他地区の方達とも交流することができてよかったです。(3区浅野)

○早いもので自治会会长になってから1年が経ちました。最初は右も左もわからなかつた会長業務も、月日が経つに連れて理解することができました。次年度の役員決めのことで問題点が残ってしまったので、来年度1年間かけて、問題解決できたら幸いです。役員の皆様、1年間お疲れ様でした。(4区小川)

.....

横断歩道の渡り方;飛び出さない、ゆっくりと。
横断歩道の手前で止まり、右・左・再度右を見る。
右側から来た車が止まってくれたら、運転手の目を見て会釈・うなづく・手を挙げるなどして渡る。
左側からの車がよく見えない恐れがあれば左方を確認しながら渡る。
事故が起きれば、ケガをするしイタイ。
大勢の人に迷惑をかける。運転者・警察・救急車。病院・長期診療。
家族・友人・同僚に心配をかける。
KY:危険予知の考え方を身に付ける。

「わかば自治会」からの原稿はありません。

自治会と、子ども会育成会と、胃痛と
第一住宅相武台団地 佐藤ゆり 緑寿会 166世帯

自治会会长より直々にご依頼いただき、原稿作成を引き受けてしまいました。大変後悔しています。書けない苦しみに加え、締切が迫る焦りで、胃痛もピークを迎えていました。

自治会のことで胃が痛くなったのは、この原稿作成と次年度ブロック役員選出です。任意と互助で成り立つ組織では、円滑に役員を選出する仕組みがあると思います。例えば、緑ヶ丘子ども会育成会には、通称「一子一役員制」があり、第一住宅自治会の各ブロックには、「輪番制(持ち回り制)」があります。それぞれの会の性質に合わせた次年度役員選出制度は、暗黙の了解の下、今日も活用されていることだと思います。

私が今年度自治会ブロック役員を引き受けたのは、そうした制度を前提として、前任者に指名されたからです。実は、引き受ける一年も前から指名されていたこともあり、「あ、回ってきたのね?」と気軽な気持ちで引き受けることができました。しかし、いざ自分が指名する側になってみると、その制度を盾に次年度役員を押し付けている罪悪感でいっぱいになりました。皆様それぞれにご自分の役割をお持ちで、諸般の事情も抱えており、その重さは自分の事情と比較できるものではありません。大変な状況と知りながら、次年度役員をお願いにあがることが辛く、胃が痛くなりました。また、私の家庭の事情で、お願ひにあがるのが遅くなってしまい、自治会会长から「進捗はいかがですか?」と、ご心配のお声掛けをいただきました。胃痛、最大値更新の瞬間です。お願ひにあがった後の返答待ちの時間は、「引き受けてくださる方が誰もいなからどうしよう」と、不安を大きく育てる時間となりました。少しでも不安を小さくしようと夫に相談したところ、「役員の業務内容が不透明で、煩雑に見えるから、引き受けることを躊躇してしまうのでしょうか。」と、今流行りのAIソフトの様に回答してくれました。確かに仰る通りですが、夫は完全に他人事です。やることが手につかず山積していく中、「役員のバトンを渡すことは最早迷惑でしかなく、こんなに胃が痛い思いをするならば、いつのこと役員選出制度がある組織から全て退会すれば良いのです」と、思い詰めていました。

ありがたいことに、次年度ブロック役員を引き受けてくださるとのお返事をいただき、私は自治会を退会することもなく、胃痛はすっかり消え去りました。引き受けていただいたご恩は、夫の指摘を反映した令和5年度限定の引継書を作ることにかえて、お返しするつもりです。

一方、子ども会育成会のことで胃が痛くなったのは、何といつても会長当選と資源回収事業です。

令和3年度緑ヶ丘子ども会育成会会長に会発足初のくじ引きで当選し、最初の胃痛がやってきました。コロナ禍がじわじわと広がる中、前任者より引継ぎいただいたものの、いわゆる幽霊会員で要領の悪い私は、子ども会の年間の流れや会長の仕事内容が掴みきれずに不安だけが増大し、胃薬に頼るほどの胃痛を患いました。

前年度役員4名と令和3年度役員3名には、始動当初から沢山助けていただきました。そして胃痛が何となく治った頃、今度は子ども会で長年に渡り業務委託していた資源回収業者が6月の回収を最後に突然撤退てしまい、再び胃痛が私を襲いました。



令和3年度役員3名を筆頭に、子ども会育成会会員の皆様や、成り行きを見守ってくださり、時には相談に乗ってくださった第一住宅・わかば両自治会会长と、両自治会会員の皆様、ひのき自治会の皆様に新規回収業者と、実に多くの方のお世話になりました。あの時は、本当にありがとうございました。毎月第4土曜日の回収日が来る度に、胃痛ではなく、感謝の念が湧いてきます。

そして来る令和5年度は、再び子ども会育成会会長を務めます。胃痛に繋がる様なことは、なるべく遠慮したいと今から神頼みしています。

さて、胃痛がピークに達し、すっかり荒れ果てた家の中で「ああ、どうしよう。書けないよお！」と叫ぶ私に、A.I.的夫の御言葉は、「文章にこだわり過ぎです。早速、提出しましょう。」でした。全くもって、仰る通りです。もう、提出します。

気づく・凡事徹底 150世帯 緑ヶ丘六丁目自治会 会長 大塚幸伸

40年前30代の頃、テレビ東京「新トップ登場」で「仕事の前の一仕事」トイレ清掃をしていたら社長になった、鍵山秀三郎氏の出演であった。

その後、講演のビデオをいただきました。その一部を紹介します。

①人間は規則や何かによって仕事をするということはない。社風によって人間は仕事をするようになっている。いい社風を創ればいい仕事をするというのが私の考え方で、会社の人達の気持ちをなごやかにして社風をよくする。そうすればかならず会社の人達は今度はお客様を大事にして仕事を発展させてくれる……こういうふうに思ってやってきた。

②社長自らトイレ掃除をしていて、創業期より今の方が熱心にやっている。トイレ掃除をやっていると非常に物に気がつくようになり、やりながらあれこれ考え、思わぬことを思いついたり、忘れていたことを思い出したりする。

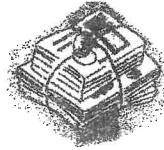
最近は社外からいろいろな営業所の方々が実践研修といって、トイレ掃除研修という形で大勢来られるようになったが、最近の特徴は経営者自身が率先して来られるようになったことだ。

③社員の人達が商売をしていて、屈辱的な仕事をしなくてすむようにするためにはどうしたらいいかということを考え、それには会社の質を上げるということを考えた。会社の質を上げると、売り上げを上げるとか、利益をたくさん出すとか、資産を持つことが質の向上になると思われるが、私はそういうふうには思はない。社員の質が良くなることが会社の質を上げるのだ。その一つの方法としてトイレ掃除を徹底してやってきた。

④たとえトイレを掃除しておいても10人も使えば汚れてしまうが、3人でも5人でもきれいなところを使えば無意識のうちにきれいな気持ちになってくると思っている。そうしたわずかなことでも、積み重ねて行くことによって社風がよくなる。

社員がそういう気持ちで人に接すれば本当に世の中がよくなると思う。善の循環になる。善の循環を作るためには、私は相当な努力もいとわない。

私自身も感情の起伏の激しい人間であるから、自身の修行のためにもなると思って続けている。



⑤人が幸せになれるかなれないには、いろいろな条件があるが、第一の条件として気づく人でないと駄目。気づかない人は絶対に幸せになれない。

一つひとつの細かいことに気づいて、それに対して正しい反応をして行ったら、修正という行動が取れる。ところが気づかないともう修正する行動が取れない。すると自分に対して不愉快に思っている人は離れて行ってしまい、人との関わりがどんどん薄くなって行く。

気づく人になるのに一番コストが安くてやろうと思えばできるというのが清掃である。問題意識を持って不都合を解消していく過程で段々気づく人間に自分が変わって行く。

⑥本社だけでも車が40台ぐらいある。ホースの蛇口は1本しかない。洗車のための車が何台も待っている。待っていることが仕事だと思っているが、待っているということは仕事のうちに入らない。こんな無駄なことはない。蛇口の数を増やしただけではまだ解決にならない。大きい水ためを作り、水をいっぱいにして、そこから汲めば1秒で汲める。また、ホース止めを付ける。能率・効率を上げれば上げるほど気づいて行く。

⑦あらゆる人間が生きて行く上で大変大切な根本は問題に近づくということ。誰でも人間は、いやなこと

に対しては自分を遠くに置きたいという考え方を持っているわけで、できればいやなことは気がつかない、いやな人には近づかない。ところがそういう人生では積極的ない人生はできない。誰かが問題を解決してしまう。それでは自信を喪失する。できるだけ問題が起きたら、それに早く自分から近づく。

⑧あらゆる人間が生きて行く上で大変大切な根本は、問題に近づくということ。誰でも人間は、いやなこと

に対しては自分を遠くに置きたいという考え方を持っているわけで、できればいやなことは気がつかない。いやな人には近づかない。ところが、そういう人生では積極的ない人生はできない。誰かが問題を解決しま

す。それでは自信を喪失する。できるだけ問題が起きたら、それに早く自分から近づく。

「田の草取り」の精神

この秋は雨か嵐か知らねども

今日の務めと田の草を取る

たとえ自分のやったことが無駄になるかもしれないけれども、できるだけの最善の努力をすることが大事。

⑨社長だから掃除をする必要はない、そういうふうに私は考えない。社長に要求されることは何かと言うと、それは先見性である。一生懸命やつても方針が間違っていたら、その会社は駄目。自分の心の中をきれいにしておかないと、やましい考えを持っていたり、自分さえよければいいという考えを持っていたら必ず判断が狂う。自分の心の中をすがすがしくするためには、掃除をして周囲をきれいにする。

きれいな環境の中に自分を置くことが一番大事。

⑩うちの会社はこうやって掃除をしているが、やらない人は全くやらないと言うと、それではやる人が損をするのではないかと、必ずそういう質問が出る。私は、掃除をしない人が損をする、現に損をしていると思う。掃除を怠っている人は、必ず神経が鈍い。

こまめにやっている人は、必ず間違なくよく物事に気づいてくれる。

いい人生を送ろうとしたら、人から、いやあの人は気働きのきく人だと、いつも相手の身になって考えてくれる人だとかいうふうに見られない駄目。

地域コミュニティの大きな課題

緑ヶ丘南自治会 会長 湯浅一弘 199世帯

地域には、活動している団体や組織が多くあります。それらの団体は、それぞれがそれぞれの都合で、地域を線引きし区割りを決めています。自治会もそのひとつです。これらは住所表記とも、必ずしも一致していないのが現状です。

このような区割りは、例えば社協の区割りや民生委員の区割り、小学校の学区や登校班を決めている地区の区割りなど、多く存在しています。ところが多くの場合、それぞれの区割りが微妙にずれており、一致していません。一致していないことが、日々の活動の妨げになることはありませんが、長い目で見た時には大きな障害になることが考えられます。

昨年から小中学校でコミュニティ・スクールという制度が始まりました。地域とともにある学校というのがコンセプトなのですが、先ほど書いたように「地域」が現存するどの区割りとも一致していないために、姿が見えない状況にあります。中には自治会の中で学区が分かれているケースもあるようです。話し合う場面でも、すべての学区を網羅するような地域の代表者は存在しません。このような状況では、うまくいくはずがありません。

地域コミュニティを改めて活性化し、それぞれの団体の活発な活動を促すためには、これらの区割りを合わせていくことが必要です。そしてそれら団体を統合することができれば、担い手不足の対策にもなり得ます。「地域」という言葉が実体を伴うものとなり、ひとつになることで地域コミュニティの存在が大きなものになると思います。

⑪凡事徹底 凡事というのは、平凡なこと、当たり前のこと。普通人は誰でも人並み以上になりたいという希望を持っている。何か特別のことをしないと特別の人になれないと思って、特別のことをしようと思って探すが、世の中には特別のことというのはない。全部平凡なことを的確にきちんと継続して、しかも質を上げながら徹底してやった人が特別な人になっている。私はわずかな差、微差を求めてずっとやってきた。人が相変わらずAのやり方をしている間に工夫して、Bにして、Cにして、Eにした。凡事を徹底していくと、3年、5年、10年たつたら大変な差になって、もうとても追いつけない。

「念ずれば花ひらく」 坂村真民

「二度とない人生だから」 坂村真民

そのときの出逢いが

その人の人生を根底から変えることがある

よき出逢いを 相田みつを

世界の損失

中学生のときの英語の先生の話；捕虜収容所で太平洋戦争のとき南方で欧州人との通訳をしていた。ある時全員を中庭に集合させたところ、一人の捕虜が部屋の電気を消さないで来てしまった。消して来ますと言った。そのままで良いからと言うとその捕虜は「電気を消さないのは、世界の損失です」と言った。

この話は、私の心に深くしみ込んだ。

凡事徹底と世界の損失の話、私の行動の基礎にある。緑ヶ丘だよりのワクチン接種の記事もこれによる。

一年間の活動を振り返って

さつき自治会 会長 藤村武彦 169世帯

令和4年度3回目の「緑ヶ丘だより」寄稿要請につき、時あたかも活動の総括、総仕上げの時期と重なっていることもあります。今回はさつき自治会役員諸氏の一年間の活動所感をまとめ報告することにしました。



掲題の件に関し全役員に一言づつ感想を聽かせてもらった結果は

○慣れない仕事で大変だったが仲間の協力と助力のおかげで何とかやり遂げることができた。皆に感謝している。

○今まででは近所との付き合いもごく限られたものだったが、通りすがりの人との挨拶などが何気ない会話とかが自然にできるようになった。

○防災とか福祉とか市民活動とか今まで深く考えもしなかったようなことも実際に体験する機会が得られ非常に有意義であった。

要約するとこのような感想が多くを占めました。勿論外交辞令的要素も含めてのことではあるにしても概ね自治会活動に対し、ポジティブなとらえ方をして頂いたことは会長としてまさに有り難く嬉しいことはありました。但し複数の方から、言外に匂わせるような論調で指摘されていた次の件は今後自治会活動に極めて重要な意味を含むものと思われます。

○自治会役員として精神的、時間的負荷が増えることは紛れもない事実であり自治会の活動が単に役員の「やる気」だけに頼っているようでは近い将来必ず行き詰ってしまうだろう。つまり10年、20年と慣行的に行ってきた考え方や諸施策は、単一自治体のみならず、行政、連合組織全体の問題として、大胆に見直さなければいけない時期に来ていることを示唆するものです。

このような実務者の声を謙虚に受け止め、改革のための更なる不断の努力が必要であることを改めて感じた次第です。

関連情報：気づく・気づかない

①ワクチン接種課は体育館の温度を測らず、温度調整のこと配慮していない。医者に寒いと言われても体育館だからと無視。利用者が寒いことに配慮していない。

②体育館側は温度調整の要望がないので、朝から夕方まで冷房を24度で作動。運動をする人が利用するのならよいかもしれないが、ワクチン接種の人は運動はしない。寒くないかとの気配りなし。ワクチン課の職員に対しても館内は寒くないかとも聞くことも、あるいは巡回してみることもある。

③資源節約の意識なし。

冷房代市民が利用するときは有料、市が利用は無料である。ワクチン課節約の意識はない。市民が利用の時、前半に冷房をとが後半に冷房の申し込みもある。外気温に関係なく冷房が朝から夕方まで一定との古い設備信じられない。資源の無駄と気づかない。

役所で、1円あるいは10円をとったらそれは犯罪。しかし、上記のように冷房のために無駄なエネルギーの使用をしても誰も気づかない、もったいないの意識なし。

④24度を経験しない人は衣服で調整をと安易に言うが、こんなに冷房がきいているとは知らずに来ている。

○緑ヶ丘だより7月号に続き11月号も座間市自選のホームページ委員会より私の記事掲載拒否された。